



KOBE BUSSAN CO., LTD.



平成 26 年 12 月 9 日

各 位

会 社 名 株 式 会 社 神 戸 物 産
(コード番号：3038 東証第 1 部)
代 表 者 名 代表取締役社長 沼田 博和
問 合 せ 先 取締役兼
経営企画部門 部門長 矢合 康浩
TEL 079-496-6610

業績予想の修正に関するお知らせ(補足資料)

平成 26 年 12 月 8 日に発表いたしました「業績予想の修正及び配当予想の修正に関するお知らせ」のうち、業績予想についての補足資料を下記のとおりお知らせいたします。

記

1. 業績予想の概要

<連結>

(百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想(A)	198,620	4,970	5,070	3,050	434.34
今回修正予想(B)	214,170	5,170	6,430	2,570	365.61
増減額(B-A)	15,550	200	1,360	△480	—
増減率(%)	7.8	4.0	26.8	△15.7	—
前期実績(C) (平成 25 年 10 月期)	179,499	1,956	4,012	2,929	381.88
前期実績との増減額 (B-C)	34,670	3,213	2,417	△359	—
前期実績との増減額 (%)	19.3	164.2	60.3	△12.3	—

<単体>

(百万円)

	売上高	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想(A)	173,710	4,110	2,850	405.86
今回修正予想(B)	185,760	5,470	3,460	492.22
増減額(B-A)	12,050	1,360	610	—
増減率(%)	6.9	33.1	21.4	—
前期実績(C) (平成 25 年 10 月期)	167,078	3,783	2,708	353.16
前期実績との増減額 (B-C)	18,681	1,686	751	—
前期実績との増減額 (%)	11.2	44.6	27.7	—

2. 業績予想について

<売上高>

売上高につきましては、業務スーパーの新規出店が順調に進み、2013年10月末658店舗から2014年10月末685店舗と27店舗増加、並びに消費増税後のお客様のニーズを素早く捉えた施策を実施し、消費増税の影響もありながら、1年間で既存店売上高105.5%、全店ベースで109.5%と堅調に推移したことにより売上高が予想を上回る見込みとなりました。また、前期よりグループ会社となりましたジー・コミュニケーショングループの売上高が1年間寄与したことにより、連結・単体とも過去最高の売上高を計上する見込みとなりました。(2013年10月期(半期分):169億円→2014年10月期:300億円強の見込み)

<営業利益>

営業利益につきましては、神戸物産グループ全体での販売管理費の削減や、従前より推し進めております、六次産業化による競争力強化、並びに一部商品の価格改定により、営業利益率が改善し、連結・単体とも過去最高の営業利益を計上する見込みとなりました。

(連結:2013年10月期・営業利益率:1.1%→2014年10月期2.4%・単体:1.8%→2.7%)

<経常利益>

経常利益と営業利益との差異につきましては、輸入商品の一部をヘッジする目的で取り組んでいる為替予約やデリバティブ関連の評価益が計上される見込みであり、差異につきましてはそれが主な要因となります。

また、上記理由により経常利益率も改善し、連結・単体とも過去最高の経常利益を計上する見込みとなりました。(連結:2013年10月期・経常利益率:2.2%→2014年10月期3.0%・単体:2.3%→2.9%)

<純利益>

連結当期純利益につきましては、税効果会計により法人税等の負担率が2013年10月期:32.1%→2014年10月期46.9%と、法人税等の負担率が増加することとなり、連結当期純利益は目標値を下回る見込みとなりました。具体的には連結子会社でありますジー・コミュニケーショングループの前期の法人税等合計額が▲418百万円に対し、当期の法人税額合計額が309百万円と実質的に法人税が約700百万円増加する見込みとなったためであります。また、特別損失(店舗資産の減損)も連結当期純利益の減少要因であります。

その結果、連結当期純利益は目標値を下回る見込みとなりましたが、単体につきましては、過去最高の純利益を計上する見込みとなりました。

以上